



チャレセン

昨日の昼休みに行われたチャレンジ・センター試験の申し込みでは、1学年全体で270名の諸君が手続きを済ませた。ちなみに、現2年生の昨年の申込者数は265名くらいだったとのことなので、先輩よりもちょっと増えたことになる。ただし、その2年生は、今回については310名を超える諸君が申し込んでいるとのこと、ほぼ全員が受けるといった状況である。昨年と併せれば、2回、模試形式でセンター試験を経験することになるわけで、本番に向けてイイ準備が出来ていると言えるかも知れない。迷っている人や、とりあえず予定がたっていない人でどうしようか決めかねている人も、500円というリーズナブルな価格でもあることを考えると、できれば申し込んでおいた方がよいと思うので、そういう人は数学科のS藤先生に申し出よう。

*

日比谷には、第一志望で入学した諸君が多い一方で、実は国立や私立が第一志望だった人や、当初受検を考えていなかったが、成績が伸びた結果、塾の先生に勧められて受検してみたら、予想外にも合格してしまったという人もいる。また、中にはご兄弟・姉妹が卒業生であることから、自分ではそれほど受検する気がなかったのに、あれよあれよという間に日比谷を受けることになっていた、といった人もいるに違いない。

そういう人の中には、日比谷の授業の雰囲気ややる気を出したり、部活が楽しかったり、前期のお祭り騒ぎにすっかり魅了されたりして、すっかり「日比谷生」になりきった人もいるだろう。しかし、日比谷の忙しい前期は

やはり個性的であるが故に、うまくそれになじむことができず、友だちもあまり増やすことが出来ないまま後期を迎え、ますます難化する授業を前にして、自分の立ち位置をしっかりと見定められないでいる人もいる、あるいは、このまま何となく日々をやり過ごすことにしようと思えながらも、本当にそれでイイのかと、自分の中で「急須磨きの状況」に陥っている人もいるのではないだろうか。

学年集会でも話したが、日比谷の一番イイところは、周囲に素晴らしい友だちがいることである。もし、そのことに気づかないで「イイ友だちなどいない…」と思っているとしたら、それは明らかにその認識の方が誤りである。13年日比谷にいる私が言うのだから間違いない。素晴らしい友だちの存在に気づいていないのである。

素晴らしい友だちと多く関われば関わるほど、自分も高まるし、相手もそれにとともに高まっていくものである。日比谷にまだ居場所がないと感じている諸君は、何でもいから…例えば、授業中のディスカッションの際にでもいいし、宿題の分からないところを質問するといった機会でもいいし、SSHのイベントに参加してみるといったことでもいいし、さらに「チャレセンの会場の第一希望はどこにした？」といったきっかけでもイイから、友だちと積極的に関わっていくことが必要だ。その中で、新しい居場所が見つかったり、新しい目標が見つかったりするに違いない。

チャレセンも、そんな機会の一つである。